



No.310 平成25年7月15日発行  
発行・編集 連合駿台会

発行人 広報委員長・齋藤柳光  
編集人 事務局・矢嶋まゆ子  
〒101-0052千代田区神田小川町三―二二  
明治大学「紫紺館」内  
電話 (〇三) 三二九六一四七七  
印刷 有限会社 美創

## 第五十九回連合駿台会総会を開催

第五十九回連合駿台会の通常総会が、平成二十五年五月十七日、明治大学「紫紺館」三階会議室で開催されました。

まず山口政廣会長が開会を宣言し、規約の第五章・第十三条に従い会長が議長となり、坪昭二専務理事の議事進行により、議案の審議が進行されました。

### ○第一号議案

平成二十四年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表・財産目録の報告、ならびに監事による監査報告承認の件

▽平成二十四年度の事業報告(①例会・総会、②理事会、③その他(特別行事、正副会長会、運営委員会および各委員会など)、④会報発行、⑤会員状況)について、坪専務理事から報告があった。今年、各委員会の委員長が中心となって、計六回の運営委員会を

開催したことが新しい試みである。組織・会員増強委員会は八回開催され、これが多くの新会員をお迎えすることに大きく役立った。

その他の委員会も活発に委員会を開催し、総務・事業委員会が二回、広報委員会が四回、大学支援委員会が五回、財務委員会が三回であった。特に財務委員会がこれほど多く開催されたのは初めてで、従来の決算を見るだけでない活動が見られた。また、課題が重複するということから、総務・事業委員会と組織・会員増強委員会の合同委員会も開かれた。会報は、従来通り隔月で年六回発行し、会員の皆さんに配った。会員状況は、二十五名の純増となり、昨年同様、期末の人数が期首の人数を上回ることとなった。

▽平成二十四年度の収支計算書・正味財産増減計算書・年度末貸借対照表・財産目録について、谷慈義財務委員長から以下の報告・説明があった。

・「収支計算書」については、「収入の部」では、年会費収入が予算額1650万円に對

し決算額1388万3000円で、2660万円ほど少なく、予算の設定段階でちょっと無理があったように思われる。したがって二十五年度の予算(案)ではそういうところがないように策定している。詳細がいえば、予算では一般会員が二百九十名となっているが、実際に納入されたのは二百五十五名で、かつ途中入会の方が結構いらっしやう、その方たちは月割計算になるので、それを均して計算すると二百四十名分ということになる。すなわち5万円×50名で250万円の誤差が出たと思われる。また会費を納めていただけの見込み数は三百二十八名(退会、休会、特別・名誉会員を除いた数)で、うち、二百五十五名の一般会員、四十七名の地方会員、合計三百二名が年会費を納めていただいた。新入会員に関しては、組織・会員増強委員会の多大な努力によって四十九名増えたが、一方で退会者が二十四名いらして、この数は毎年三十名近くに及んでいる。

・「支出の部」の総務費関係はほぼ予算通り、事業費では、広報委員会費が予算より60万円ほど多くなっているが、予算外のものとして、連合駿台会の会案内制作費(25万円)、ホームページのデザイン変更(28万円)が予算に入っていなかったためだと思う。一方、大学支援委員会費は、予算額5

90万円に対し決算額約290万円で、学術賞・学術奨励賞(マイナス25万円)、寄付講座(マイナス40万円)、その他大学主催行事への支援等(マイナス230万円)のご協力が大きかった。その結果、何とか34万円ほどの赤字で収まった。このご協力がなければ、かなりの赤字になったはずなので、支出については、二十五年度も引き続き二カ月に一度くらいの割で管理・調整していきたい。

・「正味財産計算書」については、フォーマットを変更して、一般正味財産と有志正味財産の増減が明確にわかるようにした。「有志正味財産」は旧茗水クラブ時代の財産で、連合駿台会になってからは増減がない。したがって「貸借対照表」では、みずほ銀行の普通預金が多すぎるので定期預金に移し、うち一本は有志正味財産と同額の1800万円とし、普通預金には、日常的に使われるものだけを残した。結果、正味財産期末残高は、6105万8734円になった。貸借対照表の「資産の部」については、そのほとんどが預金とMMFで、「負債・正味財産の部」では、源泉預り金(5660円)、有志寄付金(1800万円)と繰越収支差額(4305万8734円)を含めて、合計6106万4394円となった。

#### ▽監査報告(野口昌宏監事)

これらについて、規約第六章・第十八条の規定に基づき、五月十三日付けで野口昌宏監事・二宮充子監事が監査をした結果、会務の執行は当会の規約に従い、総会並びに理事会の決議に基づき誠実に行為されており、一般会計はいずれも適正に処理されており、計算書類は本会の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認められた。

▽これら報告について、以下の質疑応答があった。

・財務委員会費は予算額がないのに決算額があり、一方、予備費は予算額が50万なのに決算額はゼロなので、財務委員会費を予備費から使ったかどうか？

↓もとより項目が決まっているもの(各委員会運営費)のうち、財務委員会費だけ予備費に入れると、財務委員会費はゼロになってしまう。財務委員会費がなかったこと自体がおかしいので、昨年度は財務委員会費を使ったが、これを予算がないからといって予備費のところ記載すると、何の費用なのかわからなくなるので、こちらの方が明瞭表示だと思われる。

第一号議案については、全員異議なく承認された。

#### ○第二号議案

各委員会平成二十四年度事業報告および平成二十五年度事業計画(案)・収支予算(案)承認の件

▽山口会長より平成二十五年度の連合駿台会活動基本方針に関しては、従来の方針を踏襲して、基本的にはこれで進めたいという報告があった。

\*

▽総務・事業委員会 河村博副委員長

#### 〈平成二十四年度事業報告〉

- ① 正・副会長会を十月に開催した。
- ② 運営委員会を六回、その他総務関係の委員会を三回開催した。
- ③ 大学新施設(和泉キャンパス・黒川農場・生田キャンパス)見学会を実施した。
- ④ 十一月の例会を忘年会例会とした。

#### 〈平成二十五年度事業計画・収支予算(案)〉

- ① 平成二十五年度年間計画に基づき、前年に引き続き事業を円滑に進める。
- ② 新規会員の定着・懇親のための事業(ビジネス勉強会・懇親会)を行う。
- ③ 会員相互の親睦会(バス旅行・ゴルフコンペなど)を開催する。

※今年度はバス旅行に代わり十月にクルージング、その他従来年一回だったオープンゴルフを年数回に増やす(有志ゴルフクラブ

で行っていたものをすべてオープンに変更して行う) こととする。

- ④ 大学新施設(中野キャンパス・グローバルフロント) 見学会を行う。(六月十一日を予定)

【収支予算】 600万円

▽組織・会員増強委員会 丸山律夫委員長

〈平成二十四年度事業報告〉

- ① 入会審査：八回(五月十八日、七月十八日、九月二十日、十月二十四日、十一月二十一日、一月十七日、三月六日、三月二十七日)：四十五名審査  
 ② 全体委員会：三回(新活動方針および会員増強について)

③ 入会資格の見直し：ガイドラインに対する運用方針を検討(平成二十五年度継続)

④ 入会審査方法の見直し：「推薦書五枚程度集まると審査、理事会には郵送で承認」形態

⑤ 新入会員の定着方法の検討：①事前の例会ゲスト体験、②入会一～二年生の会、③若手の会の三つを立ち上げる。

〈平成二十五年度事業計画・収支予算(案)〉

- ① 入会審査：七回予定  
 ② 会員増強活動：三十五名目標  
 ③ 入会資格の見直し継続

④ 新入会員の定着方法の検討：①事前の例会ゲスト体験、②若手の会(四月二十六日に実施)、③入会一～二年生の会(総務・事業委員会担当への支援)

【収支予算】 30万円

▽広報委員会 斎藤柳光委員長

〈平成二十四年度事業報告〉

- ① 会報(第三〇三号～三〇八号)を刊行、トピックス取材掲載など紙面の充実に努力した。

② 案内パンフレットをリニューアルして企画制作、会員増強等での実用性を高めた。

③ ホームページ(HP)をリニューアルして、委員持ち回りによる定例会などの活動報告や会報掲載などによる定期的な更新を行い、他の大学関連HPとリンクするなどして、検索者増を図った。

〈平成二十五年度事業計画・収支予算(案)〉

- ① 会報HPの新機軸を打ち出す。編集面では「coffee break」(仮題)などで委員や会員有志の寄稿の立場として常設する。また、経費節減も視野に入れ、新年号でご協力いただいている個人名のみ名刺広告を、希望者を募って会則の範囲内で「会社、資格、活動など広報ピアーール」などを目的としたものに活

用いただけるような新企画をプロモーションし、将来的にはHPのバナー広告なども検討する。

② HPにこれまでの各種報告だけでなく、会の告知や活動案内などを取り込んで事前ガイド性を高め、出席者増につながるものにし、カウンターを設けてさらに検索増に務める。

③ 従来は大学支援委員会マターだったホームカミングデー、お茶の水JAZZ祭、シェイクスピアプロジェクトの協賛活動を新たに担当する。

【収支予算】 250万円

▽大学支援委員会 舟橋達彦委員長

〈平成二十四年度事業報告〉

① 駿台懇話会を一月十六日に実施し、「学術賞」を授与。平成二十四年度は学術賞三名。

② 明治大学リバティアカデミー「連合駿台会寄付講座」の前・後期実施。

・前期(六月一日) 中丸眞治氏(桔梗屋社長・連合駿台会会員)

・後期(十月十日) 今井繁之氏(シンキングマネジメント所長)

③ 新たな支援として「商学部キャリア教育」支援の検討と実施計画を行った。協力会社は「りそな銀行」「京王電鉄」



「ホテルグランドパレス」の三社。今年度四月より七月まで実施。

④ 就職情報誌「Mcareer」（発行部数一万部）に会員会社を紹介。

⑤ 経費節減として、支払い単価などの見直しをした。

⑥ その他支援のあり方などについて委員会を五回開催した。

### 〈平成二十五年事業計画・収支予算（案）〉

《基本方針》明治大学発展のため、連携を強化し大学が行う諸活動協力を支援する。また、連合駿台会員として誇れる支援内容を目指す。

① 駿台懇話会の開催と学術賞・学術奨励賞の授与を行う（平成二十六年一月下旬）

② 明治大学リバティアカデミー「連合駿台会寄付講座」の実施。

・前期（六月二十一日）山本良一氏（Jフロントリテイリング社長・連合駿台会会員）

・後期（十一月八日）佐々木伸一氏（ルートレック・ネットワーク社長・連合駿台会会員）

③ 「商学部キャリア教育」の支援実施（前期四月～七月）

④ 就職情報誌「Mcareer」の支援継続。  
新たな大学支援の研究と実施

⑤ ・留学生の支援（平成二十五年秋）  
・産学交流支援（平成二十五年秋）

⑦ 大学支援推進のための委員会を三回開催。  
【収支予算】 275万円

### ▽財務委員会 谷慈義委員長

#### 〈平成二十四年度事業報告〉

① 今年度は、退会者が二十四名、休会者が前年より九名増となったが、会員・増強活動の結果、四十九名が入会し、十六名の純増となった。

② 会費未納率は、平成二十～二十三年度は平均一五・八%であったが、年会費の徴収努力の結果、七・九%となり、前年度同様、前々年度以前と比較して半減している。

③ 当期収支差額は、予算額年14万円に対して、▲34万605円の赤字となった。

④ 平成二十五年三月三十一日現在  
会費納入者数：三百二十八名（地方会員は五十四名）

※うち未納者数二十六名（七・九%）  
過去三年間（平成二十一～二十三年度）平均は一二・七%（平成二十三年度：八・二%、二十二年度：一六・六%、二十一年度：一三・三%）

#### 〈平成二十五年事業計画・収支予算（案）〉

① 年会費収入、例会費収入、広告費収入等の収入額に対応した支出の予算管理により、初期の収支差額を確保する。

② 当会資産の運用、活用方法について協議し、財産基盤が損なわれないよう使途など提案する。

③ 連合駿台会の改革のあり方や、大学支援の方法などについて、アドバイスをを行う。

【収支予算】 10万円

#### 【平成二十五年収支予算（案）】

① 収入の部では、年会費収入は1427万円、一般二百五十八名、地方四十七名、新入会員入会金を三十名とした。例会費収入は夜の部・四回のうち三回を百十名、一回を百名、昼の部は九十名として、242万円と設定した。広告費収入は、単価2万円の広告もあると仮定して、80万円とした（前年比20万円増）。結果、当期の収入については、1751万円に設定した。

② 支出の部では、総務費は535万500円で昨年実績とほぼ同額とした。事業費は当初の各委員会から提出された支出では、85万円くらい赤字が出てしまうので、総務・事業委員会費は30万円減らして600万円に、大学支援委員会費は25万円減らして275万円にしてもらった。予備費は昨年の50万円から30万円減らして20万円にした。これで当期収支差額を20万5000円と



した。各委員会と連携を取りながら、予算管理していきたいと思っ

▽これら報告について、以下の質疑応答があった。

・休会員が百二十四名もいるのは、おかしいのではないかと。これでは会の四人に一人が休会員ということになり、会に対する愛着がない人を、数合わせのように名前だけを残したままにしておくのは、手抜きのような気がするが……。

↓本年度より休会の連絡をいただいた時には、その事情・環境などを伺ったり、連合駿台会のごが気に入らないかを含めてお聞きするようにしている。休会であって退会ではないので、また状況が変わった時には、再度出席いただくことを願って対応するようにしている。休会の連絡をいただきたいままにするのではなく、直接会つたり、電話で伺うなどの活動を始めていると考えただけであればいい。

入会の際も、書類だけでなく、直接、委員会の方に面談に行っていたら、意志を確認してから審査をするようにしている。われわれ共通の課題であり、会の充実とともに会員増強についても、みなさんにご協力いただきたい。

休会員の中には、①正式に休会届を提出された方、②年会費が三年以上未納の方の二

通りがある。しかし、この三年間は、入会時の審査等をきちんとしていた成果もあつて、新会員で入金金および年会費を払わな

い会員はほとんど皆無である。したがって、それ以前の問題を積み残している感が否めないで、組織・会員増強委員会でも検討いただいているところだ。当クラブとしても、実質、名だけでなく会員として是非それなりの義務を果たしていただくようにしていることに、ご理解をいただきたい。会報用のファイルが一杯になってしまったので、再度作ってもらえないか？

↓予算なども考え、なるべくご意志に沿うようにしたい。  
・本年度は会創立六十周年目の節目の年になるので、何かをと考えているが、まだ計画が未定なので、今年か来年の総会前までに、何らかを企画したいと思っている。

第二号議案については、全員異議なく承認された。

○第三号議案

その他  
特になし。

以上

議事録署名人 田村 駿  
議事録署名人 上西 紘治

### 平成 25 年度 活動基本方針

「より多くの明大の卒業生が、他大学にはない特別の愛校心を抱けるよう、卒業生、教員、職員、在校生など全ての関係者が団結し、相互に絆を深めるためのリーダー的役割を果たす」

① 【各種事業の実施】

会員の知識を広く深め、相互に交換し、会員の社会的地位の向上と社会への貢献を図るため大学の学術奨励、講演会・セミナーの開催、ボランティア活動の実施、親睦会の開催等、親睦会の開催等、各種事業を実施する。

② 【大学の発展への寄与】

大学の発展に寄与するため、学術奨励表彰を行うと共に、Joint Speech Program の

実施、学生の講演会への招待・啓蒙および国際人養成支援等を実施し、大学との連携を強化する。

また、適宜、大学への提言を行う。

③ 【大学との連携を強化】

大学との連携をより強く進めていくため、大学支援委員会を中心に、知的資産の運用やビジネスインターンシップの実施等に力を注いでいく。他大学とは「私立大学経済人連携会議」等という形で、知的資産の運用の連携も引き続き模索する。

④ 【ネットワークの構築】

校友関係組織の中で、本会を名実共にレゾン・デートルのある会として発展させるため、幅広いネットワークの構築に努める。

⑤ 【幅広い世代による運営】

会員増強を一層強力に進め、特に若年会員の勧誘に力を入れ、会員年齢構成をバランスのとれたものにし、企業交流を通じて会の活性化を図る。

## 平成24年度 連合駿台会 収支計算書

自:平成24年4月1日

至:平成25年3月31日

(単位:円)

収入の部				摘要(収入の部)
勘定科目	予算額	決算額	予算比	
年会費収入	16,500,000	13,883,000	84.1%	(一般)290名×@50,000=14,500,000円、(地方)50名×@10,000=500,000円 (新入会員入会金)50名×@30,000=1,500,000円
例会費収入	2,070,000	2,271,000	109.7%	(夜例会)4回×(90名×@5,000=450,000)=1,800,000円 (昼例会)1回×(90名×@3,000=270,000)=270,000円
広告費収入	600,000	620,000	103.3%	名刺広告代@10,000×60件=600,000円
雑収入	20,000	18,108	90.5%	預金利息/MMF利息
当期収入計	19,190,000	16,792,108	87.5%	
前期繰越収支差額	43,399,339	43,399,339	100.0%	
<b>当期収入合計</b>	<b>62,589,339</b>	<b>60,191,447</b>	<b>96.2%</b>	
支出の部				摘要(支出の部)
勘定科目	予算額	決算額	予算比	
<b>I. 総務費</b>				
(1) 家賃共益費	600,000	600,000	100.0%	紫紺館事務所家賃
(2) 人件費	1,800,000	1,873,570	104.1%	会報発行業務及び事務局関連業務委託費
(3) 事務通信費	1,000,000	1,159,324	115.9%	電話代/例会資料等発送費/振込手数料 他
(4) 備品消耗品	400,000	609,226	152.3%	発送用封筒代/文具代/会員ネーム作成代 他
(5) 印刷費	500,000	578,729	115.7%	事務局コピー機リース代/コピー用紙代 他
(6) 雑費	400,000	518,567	129.6%	事務局交通費/資料代 他
<b>総務費計(I)</b>	<b>4,700,000</b>	<b>5,339,416</b>	<b>113.6%</b>	
<b>II. 事業費</b>				
<b>1.各委員会運営費</b>				
(1) 総務・事業委員会費	5,650,000	6,034,373	106.8%	各種交友関係団体との交流関係費(200,000円)/正副会長会・運営委員会費(600,000円)/名簿発行費(350,000円)/例会費・講師及び出演者謝礼・忘年会費等(4,500,000円)
(2) 組織・会員増強委員会費	300,000	236,440	78.8%	会員増強活動費(150,000円)/OBリストデータ作成改定費(100,000円)/組織委員会活動の見直し策定(50,000円)
(3) 広報委員会費	1,800,000	2,467,790	137.1%	会報発行費(1,500,000円)/HPの維持・管理費(200,000円)/広報委員会費(100,000円)
(4) 大学支援委員会費	5,900,000	2,925,744	49.6%	学術賞・学術奨励賞報奨金(1,900,000円)/審判講座(1,000,000円)/その他大学主催行事への支援等(3,000,000円)
(5) 財務委員会費		43,200		
<b>各委員会運営費計</b>	<b>13,650,000</b>	<b>11,707,547</b>	<b>85.8%</b>	
<b>2.その他事業費</b>				
(1) 慶弔費	200,000	85,750	42.9%	
<b>その他事業費計</b>	<b>200,000</b>	<b>85,750</b>	<b>42.9%</b>	
<b>事業費計(II)</b>	<b>13,850,000</b>	<b>11,793,297</b>	<b>85.2%</b>	
<b>III. 予備費 (III)</b>	<b>500,000</b>			
<b>当期支出合計(I+II+III)</b>	<b>19,050,000</b>	<b>17,132,713</b>	<b>89.9%</b>	
<b>当期収支差額</b>	<b>140,000</b>	<b>-340,605</b>	<b>-243.3%</b>	
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>43,539,339</b>	<b>43,058,734</b>	<b>98.9%</b>	

## 平成24年度 連合駿台会 正味財産増減計算書

自:平成24年4月1日

至:平成25年3月31日

(単位:円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
(当期一般正味財産増減額)	-340,605
当期収支差額	-340,605
一般正味財産期首残高	43,399,339
一般正味財産期末残高	43,058,734
II 有志正味財産増減の部	
当期有志正味財産増減額	0
有志正味財産期首残高	18,000,000
有志正味財産期末残高	18,000,000
III 正味財産期末残高	61,058,734

## 平成24年度 連合駿台会 貸借対照表

平成25年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(流動資産)	61,054,094	(流動負債)	5,660
小口現金	159,922	源泉預り金	5,660
みずほ銀行・普通預金	4,855,151	(正味資産)	61,058,734
ゆうちょ銀行・普通預金	5,590,313	正味財産	61,058,734
みずほ銀行・定期預金	38,000,000	1. 有志寄付金	18,000,000
M. M. F.	12,448,708	2. 繰越収支差額	43,058,734
(固定資産)	10,300	(うち 当期正味財産減少額)	340,605
電話加入権	10,300		
資産合計	61,064,394	負債・正味財産合計	61,064,394



## 財産目録

平成25年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>1. 資産の部</b>			
(1)流動資産			
小口現金	159,922		
みずほ銀行・普通預金	4,855,151		
ゆうちょ銀行・普通預金	5,590,313		
みずほ銀行・定期預金	38,000,000		
M. M. F.	12,448,708		
流動資産合計		61,054,094	
(2)固定資産			
電話加入権	10,300		
固定資産合計		10,300	
<b>資 産 合 計</b>			<b>61,064,394</b>
<b>2. 負債の部</b>			
(1)負債の部			
源泉預り金	5,660		
流動負債合計		5,660	
<b>負 債 合 計</b>			<b>5,660</b>
<b>正 味 財 産</b>			<b>61,058,734</b>

## 平成25年度 例会日程予定表

年	月日	開始	会場	講師	備考
平成25 (2013)	7月17日(水)	18:00	明治大学 「紫紺館」	バルセロナ五輪金メダリスト 岩崎恭子氏	暑気払い
	9月19日(木)	12:00	明治大学 「紫紺館」	未定	
	11月20日(水)	18:00	明治大学 「紫紺館」	未定	忘年会
平成26 (2014)	1月中旬~下旬	17:30	明治大学 詳しい会場は未定	学術賞受賞者 記念講演	駿台懇話会
	3月19日(水)	18:00	明治大学 「紫紺館」	未定	
	5月16日(金)	18:00	明治大学 「紫紺館」	講演なし	総会

※ 4月26日に、組織・会員増強委員会主催の「若手の意見交換会」を実施。※総務・事業委員会主催では、6月7日に第4回連合駿台会オープンゴルフコンペ（於：筑波カントリークラブ）、6月11日に明治大学新施設見学会を開催。また10月19日に懇親会（クルージング）、11月13日に第5回連合駿台会オープンゴルフコンペ（於：我孫子ゴルフ倶楽部）を予定。※駿台懇話会の日時・会場については未定、それ以外の会場はとりあえず「紫紺館」を予定しているが、変更になる場合もあり。

## 平成25年度 連合駿台会 収支予算(案)

自:平成25年4月1日

至:平成26年3月31日

(単位:円)

収入の部		摘要(収入の部)
勘定科目	予算額	
年会費収入	14,270,000	* (一般) 258名 × @50,000円 = 12,900,000円、(地方) 47名 × @10,000 = 470,000円 (新入会員入会金) 30名 × @30,000 = 900,000
例会費収入	2,420,000	* (夜例会) 4回 × (110名 × 3回 × @5,000 + 100名 × 1回 × @5,000) = 2,150,000円 (昼例会) 1回 × (90名 × @3,000 = 270,000) = 270,000円
広告費収入	800,000	* 名刺広告代 @10,000円 × 50件 + @20,000円 × 15件 = 800,000
雑収入	20,000	* 預金利息/MMF利息
当期収入計	17,510,000	
前期繰越収支差額	43,058,734	
当期収入合計	60,568,734	
支出の部		摘要(支出の部)
勘定科目	金額	
<b>I. 総務費</b>		
(1) 家賃共益費	600,000	* 紫紺館事務所家賃
(2) 人件費	1,915,000	* 会報発行業務及び事務局関連業務委託費
(3) 事務・通信費	1,160,000	* 電話代/例会資料等発送費/振込手数料 他
(4) 備品消耗品	600,000	* 発送用封筒代/文具代/会員ネーム札作成代 他
(5) 印刷費	580,000	* 事務局コピー機リース代/コピー用紙代 他
(6) 雑費	500,000	* 事務局交通費/資料代 他
総務費計(I)	5,355,000	
<b>II. 事業費</b>		
1. 各委員会運営費		
(1) 総務・事業委員会費	6,000,000	例会費・忘年会費・講師謝礼等(4,300,000円)/正・副会長会・運営委員会費等(700,000円)/ 名簿発行費(350,000円)/各種事業費(500,000円)/諸経費(150,000円)
(2) 組織・会員増強 委員会費	300,000	会員増強活動費(100,000円)/新入会員定着活動費(100,000円)/ 組織委員会活動の見直し策定費(100,000円)
(3) 広報委員会費	2,500,000	会報発行費(1,600,000円)/HPの維持・管理費(250,000円)/委員会費(100,000) ホームカミングデー・JAZZフェスティバル・シェイクスピアプロジェクト等(550,000円)
(4) 大学支援委員会費	2,750,000	学術賞・奨励賞賞金+副賞・お土産(1,700,000円)/寄付講座・懇親会(650,000円)/ スピーチコンテスト・協賛広告等(300,000)/委員会費(100,000円)
(5) 財務委員会費	100,000	委員会費(100,000円)
各委員会運営費計	11,650,000	
2. その他事業費		
(1) 慶弔費	100,000	
その他事業費計	100,000	
事業費計(II)	11,750,000	
<b>III. 予備費 (III)</b>		
	200,000	
当期支出合計(I+II+III)	17,305,000	
当期収支差額	205,000	
次期繰越収支差額	43,263,734	

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略)



関根 均  
昭和五十年・商学部卒  
NHKエデュケーショナル  
専務取締役  
神奈川県相模原市在住



桜井 保  
昭和五十六年・商学部卒  
(株)岡村製作所  
金融法人営業部部长  
神奈川県横浜市在住



白井 宏一  
昭和五十四年・商学部卒  
(株)関越物産・代表取締役社長  
埼玉県鶴ヶ島市在住



宮本 浩二  
平成四年・経営学部卒  
(株)地域新聞社  
取締役経営管理部部長  
千葉県佐倉市在住



西本 秀伸  
昭和五十八年・法学部卒  
(株)日経BPAド・パートナーズ  
代表取締役社長  
東京都大田区在住



廣渡 眞  
昭和五十五年・商学部卒  
岡部(株)・取締役社長  
千葉県浦安市在住



益子 哲郎  
昭和五十四年・商学部卒  
オリックス不動産(株)  
執行役員副社長  
東京都品川区在住

◆明大ニュース

●二〇二二年度私大経常費補助金  
明大への交付額は約四十九億円

日本私立学校振興・共済事業団は、二〇二二年度の私立大学等(大学・短期大学・高等専門学校)に対する「私立大学等経常費補助金」の交付状況を発表し、明大への交付額は前年度比七億六千五百二十七万円増の四十八億九千八百六十七万五千円となった。

●二〇一三年度大型研究四件

三億六千七百万円が採択  
文部科学省の二〇一三年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に、本学が申請していた五件の研究プロジェクトのうち四件、総研究費三億六千七百万円が採択された。

●国による初の本格調査

ガスハイドレート研が受託実施

明治大学ガスハイドレート研究所(代表 松本良特任教授、研究知財戦略機構)は、国の委託を受け日本海上越沖および能登西方海域において、表層型メタンハイドレートの埋蔵量を把握するための広域調査を開始した。国による初の本格的な調査で、今回は六月八日から七月二十日までの六週間、海洋調査船「第七開洋丸」を使い、音波で海底の地形や地質構造を把握する。

●春の叙勲

政府は二〇一三年春の叙勲受章者四千九十九人、褒章受章者七百三十六人を四月二十九日に発表した。明治大学の各県校友会支部等を通じて七月一日までに報告された受章者は次のとおり(年齢は受章時)。

▽旭日中綬章 黒木芳男氏(元日本弁護士連合会副会長。一九六六年法学部卒・七十歳)

▽旭日双光章 小林英雄氏(社)広島県トラツ



ク協会副会長。一九六三年経営学部卒・七十二歳)

▽**瑞宝重光章** 熊崎勝彦氏(元最高検察庁公安部長。一九六五年法学部卒・七十一歳)

▽**瑞宝中綬章** 森章氏(明治大学名誉教授。一九五五年商学部卒・五十七年商学研究科修士課程修了。八十歳)

▽**瑞宝双光章** 池原恵信氏(保護司。一九六六年文学部卒・七十一歳)

●**職員人事**

六月十日、事務管理職の異動・任用が発令された(敬称略、カッコ内は前職)。

○教育支援部長

大田原健司(募金室長)

○学術・社会連携部長

浮塚利夫(学術・社会連携部社会連携事務長)

○経営企画部長

田部井茂(教育支援部長)

○総務部長

奥住賢二(総務部総務課長)

○調達部長

小笠原 渉(総務部長)

○募金室長

富樫芳勝(財務部財務課長)

○事務務部資格課程事務長

高村 潤(経営企画部校友課長)

○学術・社会連携部 生田図書館事務長

高橋美子(教務事務部資格課程事務長)

○学術・社会連携部 社会連携事務長

山崎由美子(学術・社会連携部社会連携事務室)

○経営企画部校友課長

櫛方隆志(経営企画部校友課)

○総務部総務課長

鈴木優一(経営企画部企画課)

○総務部和泉キャンパス課長

川島廣司(調達部施設課長)

○調達部施設課長

川口誠人(財務部資産管理課長)

○財務部財務課長

飯塚浩司(調査役)

○財務部資産管理課長

増田隆夫(総務部和泉キャンパス課長)

○調査役 国際大学連携等担当

大野友和(経営企画部長)

○調査役 監査担当

白井利光(学術・社会連携部長)

○調査役 スポーツパーク等施設担当

鎌倉行男(調達部長)

○調査役 研究推進・研究企画担当

永島英明(学術・社会連携部生田図書館事務長)

○東京都議会議員選挙 明大校友当選者

二〇一三年六月に実施された、東京都議会議員選挙での本学校友当選者を紹介する。

※敬称略・丸付き数字は当選回数

立石晴康(たていし・はるやす)

七十一歳・自民⑧(中央区)

一九六四年政経学部卒・六七年政治経済学

研究科修了。

遠藤 守(えんどう・まもる)

四十六歳・公明③(大田区)

二〇一一年ガバナンス研究科修了。

早坂義弘(はやさか・よしひろ)

四十四歳・自民③(杉並区)

二〇〇六年ガバナンス研究科修了。

清水孝治(しみず・こうじ)

四十七歳・自民①(立川市)

二〇一一年ガバナンス研究科修了。

小山有彦(こやま・くにひこ)

三十七歳・民主②(府中市)

一九九九年政治経済学部卒業、二〇一二年

ガバナンス研究科修了。

●**OB社長**

▽東京テアトル(株)(サービス業) 太田和宏

氏(一九八九年政経学部卒・四十九歳)

▽北海製罐(株)(容器事業) 久保田裕一氏

(一九七五年商学部卒・六十一歳)

▽(株)パナース(小売業) 久保憲二氏(一九

七二年商学部卒・六十三歳)

▽平和不動産(株) (不動産業) 〓岩熊博之氏  
(一九七六年商学部卒・六十一歳)

▽新日本建設(株) (建設業) 〓高見克司氏 (一九八九年経営学部卒・四十八歳)

▽岡山県貨物運送(株) (陸運業) 〓安原晃氏 (一九六七年政経学部卒・六十八歳)

▽(株)長崎銀行 (銀行業) 〓山本一雄氏 (一九七九年政経学部卒・五十七歳)

▽SEMITEC(株) (電気機器) 〓石塚二郎氏 (一九七五年商学部卒・六十二歳)

▽岡藤ホールディングス(株) (証券業) 〓小崎隆司氏 (一九七七年政経学部卒・六十歳)

### ●二〇一三年度科研費

過去最高五億六千万円二百五十件が採択

文部科学省および独立行政法人日本学術振興会から、二〇一三年度の科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)の交付内定が発表された。明大の二〇一三年度の採択件数は新規と継続分を合わせ二百五十件(前年度比九件増)、金額は五億五千九百三十二万円(同一億四百九十七万円増)で過去最高を記録した。

### ●東京オリンピック・パラリンピック実現に

大学の力を 招致委と協定

全国七十七大学と東京都、招致委員会が

連携協定を締結

二〇二〇年の「東京オリンピック・パラリンピック」招致を目指し、明治大学など全国の七十七大学と東京都およびオリンピック・パラリンピック招致委員会による連携協定締結式が五月二十三日、東京都庁で開かれた。二〇二〇年の開催候補地三都市の中で、大学を巻きこんでの招致活動を展開しているのは東京のみ。各大学は今後、PR活動だけでなく、調査・研究やスポーツ人材育成など幅広い連携を通じて招致に協力していく。

### ●和泉図書館 開館一年で来館者百万人

昨年五月に開館した和泉図書館の来館者数が五月二十七日、延べ百万人に達した。

同日午前十一時、百万人目としてゲートにくぐったのは、三浦愛優さん(商1)。「勉強しようとしたまま寄ったら百万人目でビックリしました」と目を丸くしながら、金子邦彦図書館長から認定証と記念品を受け取った。

### ●中野図書館

一日五百人超が利用する「知」の泉

約二千百人が通学する中野キャンパスの図書館は、一日あたり五百人超の学生が利用する。入口ゲートに学生証をかざし入館すると、すぐに特設展示棚があり、五月はコンピュータ関係の専門書として定評のあるオンライン本を展示していた。さらに奥に進むと、国際

日本学部で主に展開されるクールジャパン研究とかかわり深い専門書が所狭しと並ぶ。

### ●司法試験短答式試験合格者

明大は全国五位

法務省は六月六日、五月に行われた二〇一三年司法試験の短答式試験の合格発表を行った。明大の合格者は二百二十四人で全国五位だった。総受験者数七千六百五十三人(前年比七百三十四人減)のうち、合格に必要な成績を得た者は五千二百五十九人(同八十八人減)、合格率は約六八・七%(昨年は六三・七%)、合格者の平均年齢は三十一・〇歳だった。

### ●「明治大学校友全国高等学校長・副校長・教頭会」を開催

明治大学出身の校長・教頭ら高校教員と、明大教職員との交流や情報交換を図る「明治大学校友全国高等学校長・副校長・教頭会」が五月二十九日、駿河台キャンパスで開かれ、双方の関係者約四十人が出席した。

### ●世界に広がる協定校

四十カ国・地域二百十九大学と協定

明治大学は、国立台北科技大学と学部間協力協定、シエナ外国人大学、ジョセフ・フーリエ大学、セーデルトーン大学、大連海事大

学、ネブラスカ大学オマハ校、北テキサス大学と大学間協力協定を新たに締結した。協定校は四十の国と地域で、二百十九大学(学部間協定など含む)となった。

●国際連携機構「明治大学グローバル人材育成推進事業」パンフレット発行

二〇一二年度文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の採択など、本学の海外留学の取り組みなどをまとめた「明治大学グローバル人材育成推進事業」パンフレットが発行された。

●世界難民の日シンポジウム

明大生が「難民の声」発表

「世界難民の日」の六月二十日、明治大学と国連難民高等弁務官(U.N.H.C.R)駐日事務所、世界宗教者平和会議(W.C.R.P)日本委員会は、「信仰を支える難民保護」をテーマにシンポジウムを開催。基調講演の後に、国際日本学部二年のジャファル・アタイさんが自らの経験について発表し、アフガニスタンでテロリストに家を追われた経験や日本で難民生活の様子などについて報告した。

●女子ラクロス部

米・ボストン大学と親善試合を開催

体同連女子ラクロス部は六月五日、八幡山

グラウンドに米国・ボストン大学女子ラクロス部二十八人らを迎え、日米国際親善試合を行った。これは、女子ラクロス部の部員自らが計画し、日本ラクロス協会の審査を経て実現したもので、ボストン大生七人に対して部員六人がホームステイ受け入れ先となり、スポーツを通じた文化交流も行われた。

●明大町づくり道場

四年目の活動がスタート

お茶の水・神田・神保町界隈の音楽を通じた町おこしを目指す「明大町づくり道場」は五月二十五日、駿河台キャンパスで今年度のキックオフミーティングを行った。

●中野キャンパスオープン記念・シンポジウム「大学街の誕生」を開催

明治大学と帝京平成大学は五月二十五日、中野キャンパスオープン記念講演・シンポジウム「『大学街の誕生』—大学の役割、地域の期待—」を、帝京平成大学中野キャンパスで開催。地域の期待に応える大学の取り組みについて両大学が講演し、田中大輔中野区長を交えたシンポジウムで、中野の街と学生との関わり方について可能性を探った。

●「阿久悠論—文化水流—神田川点描—」

中野キャンパスで開催

リバティアカデミーのオープン講座「阿久悠論—文化水流—神田川点描—」が五月十一日、中野キャンパスで開かれ、国際日本学部の吉田悦志教授が、偉大な作詞家阿久悠の半生や作詞の秘密について1時間半にわたって講演した。会場には、地元中野区民やリバティアカデミー会員ら約三百人が訪れ、ユーモアを交えた笑いの絶えない講義を満喫した。

●「情報を読む力、学問する心」

和泉図書館で開催

リバティアカデミーは四月二十七日、和泉図書館ホールで、京都大学名誉教授(元総長)で前国立国会図書館長を務めた長尾真氏を迎え、オープン講座「情報を読む力、学問する心」を開催した。会場定員を超える百人の受講生が参加し、熱心に聞き入った。

●現象数理学研究拠点

キックオフフォーラム開催

本学の先端数理学インスティテュート(MIMS)は六月二十二日、中野キャンパスホールで、「現象数理学研究拠点キックオフフォーラム—現象数理学の継承と新しい展開を求めて—」を開催した。来賓に、文部科学省研究振興局融合領域研究推進官の粟辻康博氏、日本数学会の舟木直久理事長、日本応用数学会の高橋大輔副会長、情報・システ



ム研究機構の北川源四郎機構長を迎え、本学からは福宮賢一学長、日高憲三理事長、MIMSの三村昌泰所長をはじめとする関係者ら多数が出席した。

### ●明治大学ブランディングサイト

【Meijinet】オープン

明治大学の教育、研究を中心とした情報を広く社会へと発信していくWebサイト【Meijinet】が七月一日からオープンした。  
<http://www.meijinet>

### ●中野キャンパス開校記念

企業と大学との交流会を開催

就職キャリア支援部は中野キャンパスで六月二十一日、明大生の採用実績が一定以上ある企業、約八十社の採用担当者約二百人との交流会を開催した。本学からは、日高憲三理事長、福宮賢一学長、中野キャンパスの学部長、研究科から、国際日本学部の白戸伸一学部長、総合数理学部の砂田利一学部長、大学院先端数理学部研究科の小川知之研究科長、同役職者・就職担当教員ら六十人以上が出席し、中野キャンパスでの教育研究内容や就職支援の現状、企業側の採用状況や採用意欲などについて企業関係者と情報交換した。

### ●東日本大震災の風化を防ぐフォーラム

明治大学震災復興支援センターなどは六月十五日、「東日本大震災の風化を防ぐフォーラム―福島県沿岸の町『新地町』の取り組みを事例として―」と題するフォーラムを駿河台キャンパスリバティホールで開催。新地町の職員、中学生らが講演やディスカッションを通して、震災を忘れぬよう訴えた。

### ●法科大学院が「私の弁護士像」を開催

二度の震災経験 弁護士過疎地域での活動を語る

法科大学院は六月十八日、宮城県気仙沼市を拠点に活動する弁護士を招き、「私の弁護士像―阪神大震災、大阪、気仙沼、東日本大震災、それから―」（明大震災復興支援センター後援）を開催した。会場には、法科大学院生らが訪れ、被災地や弁護士過疎地域での弁護士活動について熱心に耳を傾けた。

### ●障がいのある学生のサポート方法を学ぶ

「障がい学生学習支援セミナー」を開催

明治大学学習支援推進委員会は六月十五日、教職員を対象とした「障がい学生学習支援セミナー」を駿河台キャンパスで開催。参加者は、実践演習を通じて障がいを持つ学生への理解を深めるとともに、適切なサポートのために必要な知識と手法を学んだ。

### ●「坂東玉三郎演じるということ」開催

文学部・齋藤孝教授と対談

歌舞伎界を代表する女形で人間国宝の坂東玉三郎さんを招いたりバティアカデミーオープン講座「演じるということ」が、六月七日、駿河台キャンパス・アカデミーホールで開催された。会場は学生やリバティアカデミー受講生ら約千百人で埋め尽くされ、来場者は一時間半にわたって、玉三郎さんの演技論や文学部・齋藤孝教授との対談を堪能した。

### ●創立者出身地・天童「食のフェア」を開催

天童市長も来校し、学長と懇談

明治大学創立者の一人、宮城浩蔵の出身地である山形県天童市の特産品を使った「ふるさと天童食のフェア」が六月十日から五日間、駿河台キャンパス・リバティタワー二十三階のサロン「燦」で開催された。

### ●街の魅力PRのリーフレットを制作

商・小川ゼミが京王電鉄・東京都交通局と連携

商学部・小川智由ゼミナールはこのほど、京王電鉄と東京都交通局と共同で、双方の沿線の街の魅力PRするリーフレットを制作した。リーフレットは、A4二つ折りサイズで計十二ページ。六月十五日から京王線・井の頭線の全駅（六十九駅）と都営地下鉄の百

一駅に設置されている。

### ●北島忠治ラグビー祭二〇一三開催

体育会ラグビー部による「北島忠治ラグビー祭」が五月十九日、世田谷区の八幡山グラウンドで開かれた。雲一つない絶好のラグビー日和の中、ラグビースクールの子どもたち、その保護者、ラグビー部OB、ファンら約七百人がグラウンドに集まりイベントを楽しんだ。

### ●水泳・ジャパンオープン二〇一三

明大からトリプル優勝！

五月二十四日から三日間にわたり水泳ジャパンオープン二〇一三が、さがみはらグリーンプールで開催され、明大から平井健太（商1）、平井彬嗣（政2）、小日向一輝（商1）三人が優勝した。

### ●サッカー部

第二回関東大学サッカートーナメント

熱戦制し初優勝

体育会サッカー部は六月九日、九日間にわたり開催されていた「アミノバイタル」カップ二〇一三 第二回関東大学サッカートーナメントにおいて慶大を下し、初優勝を果たした。

### ●硬式野球部

東京六大学野球春季リーグ戦優勝

体育会硬式野球部は五月二十八日、東京六大学野球春季リーグ戦で、法大に三対二で逆転勝利。全チームから勝ち点を挙げる「完全優勝」で、三季ぶり、通算三十五度目の優勝を果たした。

### ●レスリング部

創部八〇周年記念式典を開催

体育会レスリング部の創部八〇周年記念式典が六月二十二日、都内のホテルで開催され、現役選手、OBら約四百人が出席した。

### ◆駿台トピックス

#### ●第四回オープンゴルフコンペを開催



第四回日に  
なるオープンゴ  
ルフコンペが、  
六月七日、茨城  
県・筑波カント  
リークラブで開  
催されました。  
今回より、今ま  
で同志のゴルフ  
クラブで行って  
いたコンペをす  
べてオープンゴ

ルフコンペに変更し、会員すべてが参加できる形式になりました。

今回の出席者は二十六名・七組。新ペリア方式による成績結果は、優勝はアウト・インともに43で回った野口昌宏会員（昭和三十七年・商卒）、準優勝は小島清治会員（昭和四十二年・政経卒）、三位が杉浦伸二会員（昭和四十八年・政経卒）でした。

次回・第五回は、十一月十三日、千葉県我孫子ゴルフ倶楽部で開催されます。

#### ●明治大学新施設見学会を実施

六月十一日、昨年度に引き続き、明治大学新施設見学会を開催しました。今回訪れたのは、中野キャンパスと駿河台キャンパス。グローバルフロントです。

#### ★中野キャンパス（出席者五十五名）

十三時三十分低層棟四階にある会議室に集合し、三班に分かれて見学を開始しました。一階の国際色（食？）あふれる学生食堂は、外部空間とつながった解放的なダイニング、多目的室はバスケットボール等ができる屋内運動施設になっています。セルファクセスセンターはメディア自習室・メディアギャラリー機能を施した学習空間で、まさに時代の先端を行く感じです。二階のガラス張りの教室では授業風景も見学しましたが、すべての机にパソコンが並ぶハイテク教室、図書館

は集中して学習できる静かで快適な空間が広がっていました。五階には講義や講演会で利用できる四百人収容可能なホールがあり、七階のラウンジは一面ガラスの解放的な空間になっていました。十四階にあるフアカルティラウンジは、教職員専用のラウンジです。一時代前までは、想像もできないような恵まれた環境に、ため息が出るほどでした。一回解散して、希望者は次の見学の場である御茶ノ水へ向いました。

### ★駿河台キャンパス・グローバルフロント

(出席者三十二名)

十六時に一階のグローバルホールに集合して見学開始。三階のメディアラウンジを含む二階～四階は演習室や教室で、ステップコートを囲んで配置されています。最上階十七階のグローバルラウンジの壁には、世界へ飛び立つことをイメージした、船井美佐氏の鳥をモチーフにした世界地図のオブジェ、また窓から見える御茶ノ水駅界隈からスカイツリーまでの眺望は大変見事です。ここは商学部の教室があった旧十一号館跡地で、ここで学んだ方たちには、特に思い出深い場所でした。見学の後は、場所を移し、「紫紺館」六階の『ラウンジ明治』を借り切ったの懇親会、学生に戻ったような一日となりました。

### ◆五月総会出席者

秋山隆敬、坪昭二、浅井宏、浅倉晴司、阿部倫明、新井久晴、有賀隆治、池田一義、石川かおり、石川孝、石橋良一、石原道勝、石原裕司、泉山和久、岩田守弘、植木榮、上西紘治、宇川一夫、打出満、大前実之、大村託現、大山卓良、小倉忠、押田裕介、笠井正弘、片倉洋、菊部彰夫、河村博、清末法弘、日下豊顕、小柴和弘、小谷野正道、小山修、根田哲雄、斉藤春夫、斉藤弘之、斎藤柳光、坂田英夫、笹田学、眞田瞳、椎名茂樹、志田憲彦、杉浦伸二、鈴木紘一、鈴木隆志、宗邦雄、相臺志浩、高澤徹、高橋郁夫、高橋博文、武田宣夫、武原誠郎、谷慈義、田村駿、天童美徳、徳丸平太郎、泊三夫、富田浩志、中川敏洋、中西幹育、長堀守弘、中村欣治、中村豊、西尾勝治、西崎誠次郎、西本秀伸、西山武夫、西脇司、二宮充子、二宮忠、野口昌宏、橋口隆二、長谷川進一、八丁地園子、馬場範夫、林威樹、原田榮、樋口郁夫、弘中徹、福田和彦、福田浩志、藤巻伴英、舟橋達彦、眞壁八郎、松崎優子、摩尼和夫、眞野孝志、丸山律夫、水澤元博、村岡健、室井恵明、森一朗、山口政廣、山田晃久、山田憲典、山田朝彦、山田幸夫、結城康郎、吉田光一郎、渡辺紀之、渡邊洋三

### 【編集後記】

明治大学なんでも一番党としては、またまた、うれしいデータを手にした。プロ野球の歴代監督の出身大学で明治は二十六人で堂々のトップなのだ。二位早大二十五人、三位慶大二十一人、四位法大十七人、五位立大九人、六位駒大五人と続く。昭和十一年の公式戦スタート以来の監督経験者二百八人中、大学出身者は百三十二人。二割が明治ということになる。

創部一〇三年目、今春も三季ぶり三十五度目の優勝に輝いた名門としては必然のようだが、実はプロ野球選手の出身大学としては必ずしも上位ではなく、現役も九位にしか過ぎない。ちなみにベスト3は青学大、早大、亜細亜大だ。こう見ると、身びいきといわれても、明治大学野球人は「監督の資質」を持っている、と胸を張りたくなる。

プロ野球監督には才や運だけでなれない。もちろん学問などもない。亡くなった立大出身の大沢啓二さんが「おめえ世の中、社長は万といが、プロ野球の監督つてノは、たったの十二人だけ」とよく自慢していた。確かに仕事で二十人以上の監督を身近に見てきたが、人間力はそれぞれに際立っていた。そのリーダーシップ論を参考にする経営者も少なくない。

先般、埼玉の校友総会で担当した野球部、応援団、マンドリン倶楽部各OBによるシンポジウムで、野球部三十七年主将で現在はマルキュー社長の宮澤政信さんが恩師島岡吉郎監督についてこう語っていた。「野球バカになるな、もっともっと大きな心と広い視野を持って、と教えていただきました。野球に限らずいわゆる母校体育会の話題とどうしても勝ち負けが先に立ってしまう。思えばこれは応援する側の身勝手かもしれない。わが明治大学のアスリートたちは、すばらしい指導者のもと、汗と泥にまみれながら、勝利への執念とともに「リーダーに資する道」をも学んでいる。誇らしい。(齋藤 柳光)